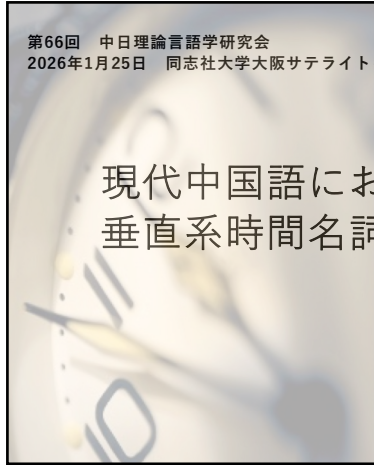



第66回 中日理論言語学研究会
2026年1月25日 同志社大学大阪サテライトキャンパス

科研費
KAKENHI



現代中国語における 垂直系時間名詞(句)の起点フレーム



下地早智子
神戸市外国語大学

1

- 本研究はJSPS科研費JP23K00485の助成を受けたものである。
- 本発表は、日本中国語学会第75回全国大会(2025年11月9日、東北大学)における招待発表とほぼ同じものであるが、当日接続トラブル等で十分説明できなかった内容について補足したい。

2026/1/28

2

Contents

- 1. 理論的背景
 - 1.1 概念メタファー理論
 - 1.2 時空間メタファー
- 2. 水平系(H系)と垂直系(V系)
 - 2.1 体系
 - 2.1.1 空間名詞と同形の場合
 - 2.1.2 時間名詞(句)の構成
 - 2.2 V系時間名詞(句)の起点フレーム
 - 2.2.1 先行研究(概念メタファー理論を用いたものに限る)
 - 2.2.2 有力な説の検討
 - 2.2.2.1 非移動事象：「行列のアナロジー('queue analogy')」=status is up
 - 2.2.2.2 移動事象
- 3. まとめ
- 引用文献

2026/1/28

3

1. 理論的背景

1.1 概念メタファー理論

(1) よくわからないもの（典型的には抽象的なもの）を、よくわかっていると信じられているもの（典型的には具体的なもの）に見立てるというやり方がある。それは、既知と信じられるものについての構造的な知識ないし概念を未知のものに転写ないし写像する（map）ことによって、**未知のものについての構造的な知識ないし概念を作り上げる**、ということである。
(本多2003：83)

- 既知と信じられているもの・具体的なもの = 「**起点フレーム (source frame)**」
- 未知のもの・抽象的なもの（写像先） = 「**目標フレーム (target frame)**」

2026/1/28

4

1. 理論的背景

1.1 概念メタファー理論

- メタファーの本質は、ある事柄を他の事柄を通して理解し、**経験すること**；
言語と思考は観念的なものではなく**身体的基盤 (embodied)**を持つ；
単なる言葉遣いだけの問題ではなく、**人間の思考体系の大部分がメタファーによって構造を与えられている**

(Lakoff & Johnson 1980, 第1章；Dancygier & Sweetser 2014, 第1章)

2026/1/28

5

5

1.2 時空間メタファー

表1 時空間メタファーのタイプ (移動の主体に前後の方向が付与される)

名称			起点（空間移動）	目標（時間経過）	解釈
主体参照型	Moving Experiencer (ME)		We are approaching Kyoto.	We are approaching the deadline.	FRONT：未来 BACK：過去
	Moving Time (MT)		Kyoto is approaching.	The deadline is approaching.	FRONT：過去 BACK：未来
環境参照型	Moving Time (MT)	当事者モデル	Maple Street comes before Elm Street.	Monday comes before Tuesday.	FRONT：過去 BACK：未来
		傍観者モデル	Ducklings follow their mother.	Summer follows spring.	FRONT：過去 BACK：未来

* 定説 (Lakoff & Johnson 1980 ; Moore 2011等) ではME (Moving Ego) とMTおよび "sequence is relative position" の3種類であるが、本多 (2012) はこの3種類が同一の移動体験を起点領域とするという画期的な「一元論」を提案している。表1は本多の説と定説の折衷案の試みである。澤田 (2025a) 等に本多の提案に対する説得的な反論がある。
1/28/26

6

6

2. 水平系 (H系) と垂直系 (V系) 空間名詞の時間用法

2.1 体系

2.1.1 空間名詞と同形の場合 (当節の用例は(2)を除いて下地・松江2022で用いたもの)

- H系には時空間メタファーの全てのタイプが見られ、FRONT/BACKの時間が両義的。
- (2) 前事不忘, 后事之师。(過去を忘れず未来への戒めとする)
【主体参照型: MT】か【環境参照型】
- (3) 不过, 该计划很快遭到国外资产管理公司等行动派股东的反对, 他们认为, 计划的决定程序缺乏透明性, 前景也不明朗。
【主体参照型: ME】
- (しかし、この計画はすぐに海外の資産管理会社など「モノ言う株主」の反対に遭った。計画の決定過程が不透明で、今後に期待が持てないという理由である。)
(『聴く中国語』2022年6月号)

2026/1/28

14

14

2. 水平系 (H系) と垂直系 (V系) 空間名詞の時間用法

2.1 体系

2.1.1 空間名詞と同形の場合

- H系には時空間メタファーの全てのタイプが見られ、FRONT/BACKの時間が両義的。
- (4) 遭遇黑色星期四, 慌不慌? 不急, 好事在后面!
(Black Thursdayに直面して不安?大丈夫。これから良いことがあるから!)
(<https://xueqiu.com/2111760429/114877183>、検索日2022/9/10)
【環境参照型: 当事者モデル】
- (5) 如今正是黎明前最黑暗的一段。
(今がまさに夜明け前の最も暗い時間帯だ)
【環境参照型: 傍観者モデル】

2026/1/28

15

15

2. 水平系（H系）と垂直系（V系）空間名詞の時間用法

2.1 体系

2.1.1 空間名詞と同形の場合

- V系は常にUPが過去、DOWNが未来で一義的。出来事の順序を表す。

(6) 这一点，我们在上面已经做过分析。

(この点については、先ほどすでに分析しました)

(BCC)

【?】

(7) 下面由谁来唱啊？

(次は誰が歌う？)

(BCC)

【?】

2026/1/28

16

16

2. 水平系（H系）と垂直系（V系）空間名詞の時間用法

2.1 体系

2.1.2 時間名詞(句)の構成要素になる場合

- H系が時間詞の構成要素として用いられる場合は、参照時が直示的、かつFRONTが過去、BACKが未来で一義的であることから【主体参照型：MT】。

表2 H系が時間名詞の構成要素のなる場合

PAST	参照時 deictic	FUTURE	語構成
以前	現在	以后	前置詞＋目的語
前天	今天	后天	修飾語＋被修飾語
前年	今年	后年	

2026/1/28

17

17

- V系が時間詞の構成要素、または修飾成分になる場合も2.1.1節の場合と同様に多義性はなく、常にUPが過去、DOWNが未来。また、V系の方がH系よりもバリエーションが豊富 (Alverson 1994)。

表3 V系が時間名詞(句)の構成要素のなる場合*

	"个"等の 存在の 可否	PAST	参照時	FUTURE	直示性
Va	否	上午	中午	下午	non-deictic
		上旬	中旬	下旬	
		上半年	六月三十号	下半年	
Vb	可	上一刻	这一刻	下一刻	deictic
		上月	这月	下月	
		上星期	这星期	下星期	
		上季度	这季度	下季度	
		上世纪	这世纪	下世纪	

*“上古”や“晚上”のように非対称的なもの(“下古”、“晚下”)、“上回”のように順序を指すものは対象としない。また、上古の“上世”“下世”は時間ではなく順序(下地・松江2022、松江担当箇所)であり、“下世”は直示的現在を基準とした未来を指さない。

2026/1/28

18

18

表3 V系が時間名詞(句)の構成要素のなる場合

	"个"等の 存在の 可否	PAST	参照時	FUTURE	直示性
Va	否	上午	中午	下午	non-deictic
		上旬	中旬	下旬	
		上半年	六月三十号	下半年	
Vb	可	上一刻	这一刻	下一刻	deictic
		上月	这月	下月	
		上星期	这星期	下星期	
		上季度	这季度	下季度	
		上世纪	这世纪	下世纪	

- V系は、参照時がnon-deicticなタイプ(Va)とdeicticなタイプ(Vb)に分かれる。

- “个”や“一”の存在を許さないVaタイプが語彙化している歴史的に古いタイプ。

2026/1/28

19

19

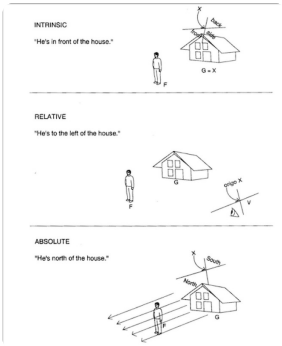


図1 Three linguistic frames of reference (Levinson 1996: 139, Figure 4.9)

2026/1/28 20

20

2.2 V系時間名詞(句)の起点フレーム

2.2.1 先行研究 (概念メタファー理論を用いたものに限る)

□ 非移動事象

- ① 「書字・読字体系のメンタルスキニング」
(Tai 1989; Fuhrman et al. 2011; Dancygier & Sweetser 2014; 鄭新爽2018)

👍 Casasanto & Bottini (2013) : 読字方向が時間概念に因果的影響を与えることを実験的に示した。読書経験のような文化的実践が、数分単位で人の心的表象を変える。

👉 日本語等も縦書きであったことや、V系成立当初の識字率が問題。

2026/1/28

21

21

2.2 V系時間名詞(句)の起点フレーム

2.2.1 先行研究 (概念メタファー理論を用いたものに限る)

□ 非移動事象

- ② 「人体のアナロジー」 (Yu 1998 : 111) ; 「水平軸の垂直化」 (瀬戸2017: 163)

👍 周辺言語の事例 (岩佐1999 : 24) :
岩佐(1999:24)の記述では、ランニーチン阿細彝語や撒尼語では、空間を人間の体と同様に考え、最上部を指す場合にはo:-接頭辞を用いる。時間に関しても空間の場合と同様に、過去を頭部と見做す。

👍 STATUS IS UPとのオーバーラップの可能性
(8) 年頭(年頭) / 年尾(年末) (9) 头儿(かしら) ; 头目(頭目)

2026/1/28

22

22

2.2 V系時間名詞(句)の起点フレーム

2.2.1 先行研究 (概念メタファー理論を用いたものに限る)

□ 非移動事象

- ③ 「行列のアナロジー ('queue analogy')」 = STATUS IS UP
(Tai 1989; Alverson 1994; Yu 2012; Dancygier & Sweetser 2014)

👍 時間的に先の者から後の者への行列と伝統的社会階層観との写像関係。

2026/1/28

23

23

➤ 「河流のメタファー」：MT

- (12) 《動く時間》とは、(中略) 自己(観察者=認識主体)が静止していて時間のみが動く。動く方向は未来から過去へ。過去が進行の前で未来が後ろである。以前と以後、十年前と十年後など多数の表現にこの認識が現れる。**時間は未来からやってきて過去に去り行く。まるで川の流れのように。**

(瀬戸2017: 104、下線(=強調)は引用者)

- (13) **水に流そう。** Let's put it *behind* us.
 ほぼ同じ内容である。英語は、わだかまりを捨てて、忘れて、新たに前を向いて歩み出そうという意味。表現としてはそれ(=問題になっていること)を私たちの後方に置いて(あるいは投げ捨てて)前向きに進もうというので《動く自己》を表す。日本語の表現は、同じわだかまりであっても、それを**時間の流れ**に委ねようとする。それは《動く時間》を体現するだろう。袂の風習に通じる。

(瀬戸2017: 116、下線(=強調)は引用者)

2026/1/28

29

29

➤ 「河流のメタファー」：MT

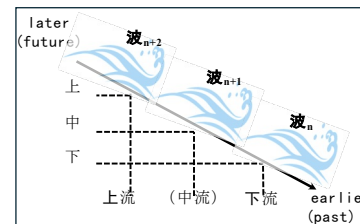


図3 「河流のメタファー」 MT

- (14) 长江后浪推前浪，世上新人换旧人。
 (Yu 2012:1343)

- (15) 展覧会タイトルに選んだ「汽車」と「かたな」は、いずれも日本の近代化の象徴だ。記者が新時代の幕開けを告げれば、刀は武士とともに過去へと流れ去った。

(『朝日新聞』、澤田2025b:21)

2026/1/28

30

30

➤ 同じ起点フレームであっても、写像に用いるモデルが異なる場合は解釈が逆転。

【主体参照型：ME】の変種⁵
 UPが「過去」、DOWNが「未来」

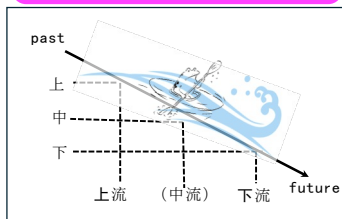


図2 瀬戸1995: 103、「河流のメタファー」：ME
 (Shimoji 2024を一部修正)

2026/1/28

31

31

【環境参照型：傍観者モデル】の変種
 UPが「未来」、DOWNが「過去」

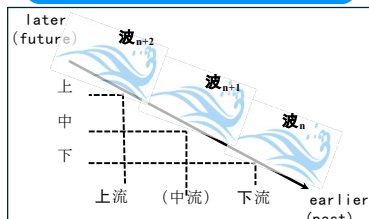


図3 「河流のメタファー」 MT

□ 循環する時間：「太陽のメタファー」(藍純1999; Xu 2008; 徐丹 2016)

- (16) **Some repeating sequences have named members**, as, for example, the sequence “morning”/“afternoon”/“evening”/“night”, the sequence “summer”/“autumn”/“winter”/“spring”, the sequence “Sunday”/“Monday”, etc., and two that I haven’t mentioned yet, namely, the months of the year and the numbered dates of months. **The named members of cycles** I will refer to as *positional* terms.

(Fillmore 1997: 50、強調は引用者)

2026/1/28

32

32

□ 循環する時間：「太陽のメタファー」（藍純1999; Xu 2008 ; 徐丹 2016）

(17) Mandarin uses vertical notions to describe time. **The terms for ‘morning’ and ‘afternoon’ refer to the movement of the sun, and time moves in a circle.** When the sun is rising, ‘above’ is employed expressing ‘fore-noon/morning’; when the sun is setting, ‘below’ is employed expressing ‘after-noon.’ This means that in some time expressions, **Chinese takes the sun as a reference.** It also explains why Chinese has vertical terms to express time.

dead metaphor

(Xu 2008:190、強調は引用者)

2026/1/28

33

33

➤ 傍証

① **意味解釈**：中国語の方位（空間指示）と時刻は同じ形態素で指示。“午”は「南中（culmination）」の方角を指し、太陽がその位置にある時刻を指す。（メトニミー）→“午”が複数あるわけではないので、“上午”/“中午”/“下午”を修飾構造と分析することは適切ではなく、動目構造であるとしないと意味解釈できない。



図 4 10世紀初めの羅針盤
(Temple 1986 (牛山訳1992:258)、丸印は引用者)

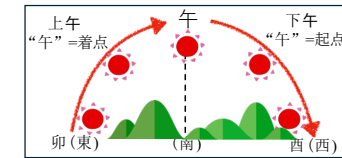


図 5 V系 (non-deictic) の時間への写像
(下地・松江2022; Shimoji 2024)

2026/1/28

34

34

➤ 傍証

② 時間の科学史：

科学史においては循環する時間認識の方が古く、古代の人々は天体の運行によって時の流れを把握した。
(Gould 1987、等)

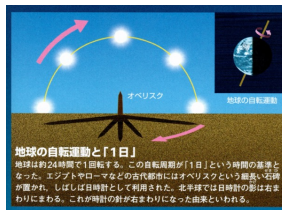


図 6 地球の自転運動と「1日」
(高嶋 編 2016:19)

2026/1/28

35

35

(18) 太陽が沈み、そしてまた昇れば、「1日」という時間がすぎたと分かる。満月が欠け、再び満ちれば、「1か月」という時間がすぎたと分かる。古代の人々は、天体の運行によって時の流れを把握した。空をめぐる天体こそ、彼らの時間の基準、すなわち「時計」だったのである。太陽は沈んでも、また昇ってくる。満月は1ヶ月後にはふたたびやってくる。天体の運行は「何度もくりかえす」ものである。それを時間の基準にしていた人々にとって、時間もまた「循環するもの」であった。
(高嶋秀行 編 2016『Newton 別冊 時間とは何か』, Newton press, p.18)

➤ 傍証

③ **移動動詞用法との並行性**：“上”の目的語は着点のみを指すが、“下”の目的語は起点を意味する場合がある。（杉村1983；徐丹 2016；Shimoji 2016）

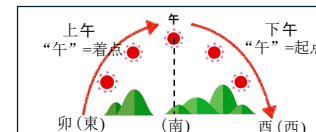


図 5 V系 (non-deictic) の時間への写像
(下地・松江2022; Shimoji 2024)

- (19) a. 上課_{着点} / 下课_{起点}
(学校に行く / 学校から帰る)
- b. 上班_{着点} / 下班_{起点}
(仕事に行く / 仕事から帰る)

閉じた経路の周回的な非垂直移動

2026/1/28

36

36

□「周回性」

《现代汉语词典》第七版には、“上2”の語釈に
 “到**规定时间**开始工作或学习”(p.1106)；
 “下2”の語釈に、
 “到**规定时间**结束日常工作或学习等”(p.1356、強調は引用者)
 という記述がある。(アスペクト的な意味はメトニミーによる拡張)

□ STATUS IS UPの関与

「日常空間よりも上位の非日常空間への移動」という点でSTATUS IS UPも関与。

- (20) “上岗” “下岗”
 (任務に就く、在職する) (任務を終える、退任する、失職する)

2026/1/28

37

37

➤ 傍証

- ③ 移動動詞用法との並行性：“上”の目的語は着点のみを指すが、“下”の目的語は起点を意味する場合がある。(杉村1983；徐丹 2016；Shimoji 2016)

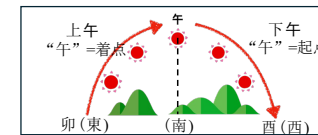


図5 V系(non-deictic)の時間への写像
 (下地・松江2022; Shimoji 2024)

- (21) a. 上车着点 / 下车起点
 (車に乗る / 車から降りる)
 b. 上山着点 / 下山起点
 (山に登る / 山を下りる)

文字通りの垂直移動の場合は、
 メタファーではないので周回性が観察されない

2026/1/28

38

38

非周回的な非垂直移動

- (22) a. 上街着点 / ~~*下街~~起点
 (市街地に行く / ~~(市街地から戻る)~~) (22ab)はstatus is up
 b. ~~*上地~~着点 / 下地~~*~~起点/着点
 (~~(野良仕事に行く)~~ / 野良仕事に行く ~~(野良仕事から戻る)~~)
 c. 上卫生间着点 / ~~*下卫生间~~起点
 (お手洗いに行く / ~~(お手洗いから戻る)~~) 器物と身体の位置関係？
 d. ~~*上厨房~~着点 / 下厨房~~*~~起点/着点
 (~~(台所に行く)~~ / 台所に行く) 伝統家屋の構造？

2026/1/28

39

39

8 北京伝統的住宅の配置図解

図7「北京伝統的住宅の配置図解」

□ 「北京伝統的住宅の配置図解」(愛知大学中日大辞典 編集処編1968/2010:14)を見る限り、“上卫生间”“下厨房”と言う理由として、「中国の伝統的家屋においてはトイレが北東、台所が南東にあったから」とするネット上の説明 (<https://bit.ly/4sQ4on2>) は必ずしも正確ではない。

(中野1991: 11-12も参照。)

北上南下、就延伸为“上厕所”和“下厨房”。但是这个说法被知乎上一个研究住宅的大神给否定了相当一部分 (原文網址: <https://kknews.cc/news/qy8ox8y.html>)

□ “猪厕”は生活空間よりも上であつたが、普及率が不明

図8 A green glazed model of a pig toilet from the Eastern Han dynasty of China. (<https://bit.ly/49YXW5u>)

40

- 同一経路の周回的移動事象と関わりのある事物はV系の形態素で指示

(23) a. 上一站 / 下一站
(前の駅 / 次の駅)

(Xu 2008: 191)

b. 上一个班机 / 下一个班机
(前のフライト / 次のフライト)

Deicticであるようにも見えるが、順序性や時刻表が基準であるとも

2026/1/28

41

41

- non-deicticで循環性が想定される場合、“年”の修飾成分に“上”を用いることができる。

(24) 2021年，中国国内生产总值比^上年增长8.1%，…
(『聴く中国語』2022年4月号)
(2021年、中国の国内総生産は^{ぜんねん}前年から8.1%増となった。)

→ 参照時が発話時ではない「その前の一年間」(Fillmore 1997 のnon-calendric)

* 会計年度を4期に分けて成長率を比べる場合の「前期比」を中国語では“环比”という。その4期のことを指すのが表3 Vbの“季度”。

2026/1/28

42

42

- いずれの用法においても、移動動詞としての“上 / 下”が直示的移動動詞“来 / 去”の共起を要する場合は多いのは、“上 / 下”が直示性を持たないことの証左。

2026/1/28

43

43

(25) 中古音(隋代音)段階では、動詞用法と名詞用法に音韻的差異が存在していたが、唐五代以降に規則的音韻変化により、両用法の音韻的合流が生じた。移動動詞と名詞の時間的意味を表す用法とが同音になり、「上午」「下午」が修飾構造へと再分析され(フレーズ全体で時間を表すため)、特定の時点を基準にして時間的な前後を「上」「下」に振り分ける用法が成立し、V系の時間表現が拡張・成熟していった(deicticな用法が確立)。

(下地・松江 2022、松江担当箇所)

2026/1/28

44

44

3. まとめ

- 現代標準中国語において、空間の対立軸を指す形態素を構成要素とする時間名詞（句）のうち、垂直軸の“上/下”を用いる系列（V系）は、すでに語彙化している古いタイプ（Va）と、フレーズレベルの新しいタイプ（Vb）に分かれる。
- Vaタイプは参照時が発話時ではないnon-deicticな時間指示であり、Vbタイプは参照時が発話時である点でdeicticな時間指示である。

2026/1/28

45

45

3. まとめ

- Vaタイプは、天体の運行を起点フレームとしており、閉じた経路の循環移動を特徴とする。また、認知者の相対的位置を問わない環境を参照する時間認識（Field-based）である点でH系と対立している。
- Vbタイプの方は河流を起点フレームとすることで、主体参照型のdeicticなタイプである点で、H系と融合する方向に変化している。
- また、いずれのタイプにもSTATUS IS UPとのオーバーラップが認められ、このメタファーが中国語において広範囲の影響力を有していることが窺える。

2026/1/28

46

46

引用文献

- Alverson, H. (1994). *Semantics and experience: Universal metaphors of time in English, Mandarin, Hindi, and Sesotho*. Baltimore: The Johns Hopkins University Press.
- Casasanto, D., & Bottini, R. (2013). Mirror reading can reverse the flow of time. *Journal of Experimental Psychology: General*, 142(3), 560–567. <https://doi.org/10.1037/a0033297>
- Dancygier, B., & Sweetser, E. (2014). *Figurative language*. Cambridge University Press.
- 董为光 [Dong, W.-G.] (2004). 〈汉语时间顺序的认知基础〉, 《当代语言学》6, 110–115.
- Fillmore, C. (1971). *Lectures on deixis*. Stanford, CA: CSLI Publications.
- Fuhrman, O., McCormick, K., Chen, E., Jiang, H., Shu, D., Mao, S., & Boroditsky, L. (2011). How linguistic and cultural forces shape conceptions of time: English and Mandarin time in 3D. *Cognitive Science*, 35(8), 1305–1328.
- Gould, S. J. (1987). *Time's arrow, time's cycle: Myth and metaphor in the discovery of geological time*. Harvard University Press.
- 本多啓 (2003). 「認知言語学の基本的な考え方」. 辻幸夫(編)『認知言語学への招待』, pp.63–123, 大修館書店.
- 本多啓 (2012). 「時空間メタファーの経験的基盤をめぐって」『神戸外大論叢』62(2), 33–56.
- 岩佐一枝 (1999). 「ランニーチン阿細彝語の語構成分析」『アジア言語論叢』3, 13–38.
- Lakoff, G., & Johnson, M. (1980). *Metaphors We live By*. The University of Chicago Press.
- 蓝纯 [Lan, C.] (1999). 〈从认知角度看汉语的空间隐喻〉. 《外语教学与研究》(4), 7–15.

2026/1/28

47

47

- Levinson, S. C. (1996). Frames of reference and Molyneux's question: Cross-linguistic evidence. In P. Bloom, M. Peterson, L. Nadel, & M. Garrett (Eds.), *Language and space* (pp.109–169). MIT Press.
- Levinson, S. C. (2003). *Space in language and cognition*. Cambridge University Press.
- Moore, K. E. (2009). Ego-perspective and field-based frames of reference: Temporal meanings of front in Japanese, Wolof, and Aymara. *Journal of Pragmatics*, 43(3), 759–776.
- 中野謙二 (1991). 「中国の住宅政策と伝統文化—四合院再評価の提起するもの」. 『中国研究月報』517, 10–22.
- 澤田淳 (2025a). 「ダイクシスからみた時空間メタファー」. 『認知言語学論考』18, 27–61.
- 澤田淳 (2025b). 「直示的アスペクト標識「てくる」「ていく」の時間認識と時空間メタファー」. 『青山学院大学文学部附置人文科学研究所論叢』, 6, 35–59.
- 榎木幹人・上原聡 (2023). 「日本語時空間メタファーの包括的研究—認知意味論の観点から—」. 『認知言語学論考』17, 63–87.
- Shimoji, S. (2016, July 17). *Conceptual opposition between “front/back” and “up/down” in Chinese space-time metaphors* [poster]. In *Proceedings of the 24th Annual Conference of the International Association of Chinese Linguistics*. Beijing Language and Culture University.
- Shimoji, S. (2024, July 27). *Does time move straight ahead or in a circle: Cognitive opposition of horizontal versus vertical axis in Chinese time expression* [poster]. In *Proceedings of the Inaugural Conference of the Cognitive Linguistics Association of North America (CLANAC 1)*. Université du Québec à Montréal.

2026/1/28

48

48

- 下地早智子・松江崇 (2022). 「直進する時間・循環する時間：“前／后”“上／下”の時間指示用法における認知的対立」. 第56回中日理論言語学研究会発表資料.
<https://www1.doshisha.ac.jp/~cjt/210/index.html>
- 篠原和子 (2019). 「時間メタファーの言語相対性 TIME IS MOTIONの経験基盤モデル」『メタファー研究 2 特集：時間のメタファー』. pp.47-77. ひつじ書房.
- 杉村博文 (1983). 〈试论趋向补语“下”、“下来”、“下去”的引申用法〉《语言教学与研究》(4), 102-116.
- 瀬戸賢一 (2017). 『時間の言語学—メタファーから読みとく』. 筑摩書房.
- Tai, J. (1989). Toward a cognitive-based functional grammar of Chinese. In J. Tai & F. Hsueh (Eds.), *Functionalism and Chinese grammar* (pp.187-226). Seton Hall University Press.
- Temple, R. (1986). *The genius of China: 3,000 years of science, discovery, and invention*. Inner Traditions.
- 魏义祯 [Wei, Y.-Z.] (2019). 〈也谈汉语时间表达的空间隐喻系统——“来/往”“前/后”“上/下”的协调〉. 《语言教学与研究》(4), 401-411.
- Xu, D. (2008). Asymmetry in the expression of space in Chinese: The Chinese language meets typology. In D. Xu (Ed.), *Space in languages of China: Cross-linguistic, synchronic and diachronic perspectives* (pp.175-198). Springer.
- 徐丹 [Xu, D.] (2016). 〈古汉语里的纵向时间表达〉. 《语言科学》15 (1), 1-10.
- Yu, N. (2012). The metaphorical orientation of time in Chinese. *Journal of Pragmatics*, 44(10-11), 1335-1354.
- 鄭新爽 [Zheng, X.-S.] (2018). 「中国語の時間表現に見られる順序認識——“上下”の時間表現を中心に」. 『認知言語学研究』 4, 109-131.

2026/1/28

49